



山田耕筰先生からの薫陶

多田 武彦

新月会70周年、心からお祝い申し上げます。1958年、勤務先の仕事で生涯にただ一度、私が山田耕筰先生にお会いした時、貴重な薫陶を賜りました。要旨は次のとおりです。

「能や歌舞伎について日本の多くの人が深い鑑賞眼を持っているように、西洋の多くの人にも西洋音楽について高い見識を持っている。従って、西洋音楽を構成するリズム・メロディー・ハーモニー・楽式論を駆使して、名作曲家・名指揮者・名演奏家が、どのように努力したかを徹底検証し、構築しなければならない。聴衆も旋律や棒の振り方のみを批評することなく、これらの名作を何度も観賞し分析して、その良否を鑑別すべきだ。」

この教示を伝統的に継承して来た関西学院グリークラブや新月会の演奏は、堅牢な、正攻法の、構築性を備えた建造物のように、荘重な印象と敬虔な光彩を、私達に与えてくれました。特に、アカペラの男声合唱は、富岡鉄齋描く豪放且つ端麗な水墨画に似て、私自身の男声合唱組曲作曲に当たっても、多くの指針と力を与えてくれました。

感謝の心もこめて、再度、申し上げます。新月会70周年、誠におめでとうございます。